

公益財団法人日本ケアフィット共育機構

HP : <https://www.carefit.org/>

団体概要

- 1999年11月 特定非営利活動法人日本ケアフィットサービス協会を立ち上げ、当時日本で急激に加速していた高齢化に対応できるしくみづくりやサービス介助の考え方を社会に啓発
- 2000年3月 「おもてなしの心」と「安全な介助技術」を学ぶ「サービス介助士2級検定取得講座」(現:サービス介助士資格取得講座)をスタート
- 2013年12月 内閣総理大臣から公益認定を受け、「公益財団法人日本ケアフィット共育機構」として登記

現在は高齢者や障害者をはじめ、「誰もが誰かのために、共に生きる社会」を目指して各種認定資格の運営をしております。

また、有資格者によるボランティア活動の場を積極的に広げていくことにも注力し、「共育」をテーマに、共に学び、共に寄り添える人材の育成を通して、様々な形の社会貢献活動を展開しております。

支援対象

小学校/中学校/高等学校/特別支援教育/その他:PTA・教職員研修等(教職員)

活動内容・活動状況

小学4年生以降～中学生向け : おもいやりの心を育む「おも活」授業

●おも活とは(<https://www.carefit.org/personal/omokatsu.php>)

小学校4年生を中心に、障害を含めて相手の立場をおもいやる行動をするためのワークを交えた授業です。

“おもいやりの行動”には2つの要素があります。

- ・困りごとに気づいて動く
- ・違いを認め合い、相手の立場になって考える

困りごとは、その人の心身機能の制約や個人の要因から生じるだけではありません。

多数派のことを考えてつくられている社会の仕組みが、少数派にとっての困りごとの原因となっています。

つまり、“障害は社会が作り出している”ということがいえます。(これを「障害の社会モデル」といいます)

障害がある人はかわいそう、できないことが多い、と考えるのではなく、社会が困りごとを作っている、

そのために自分たちに何ができるかを考えられるよう、視覚に障害のある講師と共に伝えしていきます。

また、相手の立場に立つとはどういったことなのかを子ども達に身近な学校のことや障害者の例を題材に、

自主的な問いや考えを引き出せるようなカリキュラムになっており、誰に対しても分け隔てなく接することのできる

「心のバリアフリー」を目指します。これは学習指導要領の「心のバリアフリー」に則った学習内容となっています。

対応可能時期

日程が合えば随時可能(平日)

必要経費

応相談

出張の場合には講師料・講師交通費のご相談をさせていただきます。
サービス介助士ジュニアテキストは2,000円(税抜)/冊です。

会場・定員・必要備品等

おも活の場合

場所:視聴覚室や教室(対象人数や年齢にもよります)

ご準備物:スライド投影機材(HDMIコード、プロジェクター、スクリーンなど)、PC

※ご用意が難しいものは弊機構で持参可能です

直近5年間のおも活活動実績(主に東京23区の小学校で活動)

・2018年度 36校 約2673名 ・2019年度 31校 約2387名 ・2020年度 17校 約1232名
・2021年度 18校 約1380名 ・2022年度 17校 約1135名 ・2023年度 8校 約903名

おもいやりって何だろう？



例えば視覚に障害のある人が、
信号の色がわからず困っていた時…
自分には何ができそうか、
信号機にどんな工夫があれば
1人でも安心して渡れるか、
考え発表していただきます。



視覚に障害のある
講師も一緒に
授業を行います

中学生～高校生向け：自分自身を見つめ、多様な人との関わり合いを学ぶ「サービス介助士ジュニア」授業

- サービス介助士ジュニアとは(<https://www.carefit.org/carefit/type/junior.php>)
一人ひとりが存在することの意義を学び、家族・友達・地域の人など、日常生活や学校生活で関わる人に対する「おもてなしの心」と「基礎的な介助技術」を身につけます。心の領域から技術の領域としたいに学びを進めていきます。
他者理解やクラス運営に課題を感じている先生への支援の1つとしても好評です。

カリキュラム一例

今までの自分を振り返る/将来の自分を考える/おもてなしの心/介助の心がまえ/さまざまな障害/高齢者を理解する
自分の住む社会に目を向ける/住みやすい社会にするために/身体障害者補助犬法を理解する など

全対象：障害者就労支援事業所「ケアフィットファーム」で体験授業

- ケアフィットファームとは(<https://www.carefit.org/farm/>)
山梨県甲州市に障害者就労支援事業所のケアフィットファームがあります。
ケアフィットファームはあらゆる人たちが交じり合い、共に学び、共に働き、誰もが生涯活躍できるコミュニティづくりを目指しています。障害者等の就労や生きがいづくりの場をつくるだけでなく、日本の農業事業は担い手不足や高齢化が課題となっており、政府からも農福連携が推進されています。農福連携に関心がある方、多様な人が交じり合って一緒に農業体験をしたい方、ぜひご連絡ください。(日程、体験内容、費用等は要相談)

担当者より一言

「障害」と聞くと、障害者はできないことが多い、と考える子どもたちもいるかもしれませんが、まずは「できる」「できない」ということが、その人個人に原因があってできないだけでなく、周りの環境ができなくさせていることもあることを知っていただけたらと思います。そして、今まで「おもいやり」という言葉自体は、子どもたちも何度も聞いたことがあるかと思いますが、この授業をきっかけに、人の多様性を知り、誰にでもおもいやりのある行動ができる子どもたちが増えることを願い、活動しています。